

一人一人の「自己実現」を大切に

子ども一人一人の「自己実現」を大切にしている郡山ザベリオ学園中学校（福島県郡山市、佐藤祐也校長、生徒164人）。生徒自身が「なりたい自分像」を設定し、その実現に向けてG-PDCAサイクルに取り組んでいる。活動記録や振り

返りを残した「My Consuel」を使い、自らの歩みや成長を自分の言葉で説明する「成長プレゼン」も実施。こうした取り組みにより、生徒の「主体性」や「自己分析力」などが高まっている。

え、昨年度は「なりたい自分像を持ち、それを実現する力」の育成に重点を置いた。その力を、同校では

「自立実現」と呼ぶ具体的な手立てとしてG—P—D—CAサイクルを導入。「G」は「Goal」の略で、生徒たちは自ら掲げた目的・目標の達成に向け、「達成のための計画（P）」→「計画に基づく実践（D）」

(3) 「…」→一次は「白けた直し(→A)」を繰り返した。
例えば、年度当初の学級活動で1年間の目標を設定。「クラスをまとめて引張っていける信頼される人になりたい!」。そう考えた1年生は、学期ごとに取り組むべきことを考え、

「ないない自分像」は避けた。目標内容は、学校生活に限らず、授業や行事、部活動など多岐にわたる。目標を設定できない生徒は友達と相談しながらヒントを得たり、教員が支援したりするような場面も見られた。

自分像》を振り返り、成里と課題についてまとめた。作成したパワーポイントの資料は、3学期に実施している三者面談などで使用。生徒は保護者と教員の目の前で「成長アレゾン」(10分程度)を行い、その内容に関するインタビュー

目標→計画→実践→振り返り→見直し

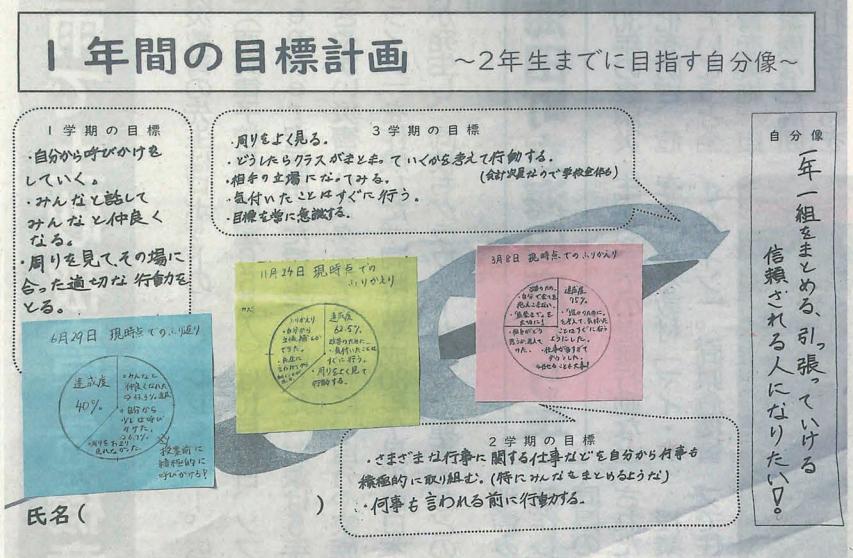
G-PDCAに取り組む

同校では、全国学力・学習状況調査や定期テストの結果を分析し、一昨年度まで学力差に着目して研究を進めてきた。「学力と相関関係がある」と分かった学習へ

像 分 自 一 年 一組 を生むる、引張っていける
信頼される人になりたい！

2年生までに目指す自分像～

1年間の目標計画



「なりたい自分像」の様式を使い、1年間の目標計画を立てた



情報端末を活用し、ペアを組んで発表準備を行っている生徒たち



数学の授業では、情報端末を使って説明動画作りなどに取り組んでいる

の動機付けについては、学ぶ目的や生徒自身が目指す目的を設定する機会が少なかったという。また、現状を把握するために、生徒に対して学校独自のアンケートやループリックでの振り返りを継続して行ってきた。こうした実態などを踏ま

三者面談で「成長プロセス分析力育ち学習」

活動記録や振り返りにつ フォリオ機能を搭載した
いては、紙を使用した場合 「Classi」を使つた
には専用ボックス、ポート 場合にはタブレット端末に

二者面談で「成長プレゼン」

た。生徒の成長を、保護者と共有できる機会にもなった。受験を控える3年生を除く1・2年生で実施したという。

ら効率良く活用。本年度が
う1人1台端末の環境にな
ったことで、この問題は解
消したといふ。
この二つの方法を、「補
佐する」という意味を表す
「MY CONSUL」と
呼び、同校の特色ある取り
組みの一つになっている。
生徒たちは「MY CON
SUL」を活用し、パワー・ポ
イントに図書の「なりたい

して積み重ねてきた。自らの弱みを知ることで、軌道修正ができる生徒は学習面でも成果として結び付いている」と話す福本葵教諭(キャリア担当)。今後も自らと向き合う場面を設け、中学卒業後も自己実現を追究できるような生徒を育てていきたい考えだ。

郡山ザベリオ学園中二年
024・952・7756